

2021年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園幼稚園】

1 めざす幼稚園像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

- 1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する
 - (A) アシステンツァの理解を深め、カトリックのミッションを具現化していく
 - (B) 創立者ドン・ボスコ、マリア・マザレロの精神を受け継ぐべく、研修を深める
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - (A) 安全教育、ならびに時機に応じた避難訓練を実施する
 - (B) 安全・安心の為の教育環境整備を充実させる
- 3 創立70周年(2022年度)における学園の将来像を描く
 - (A) 教職員の資質向上を図り、個々のスキルアップを目指す
 - (B) 過去の入試結果の分析に基づいた刷新的な園児募集を行う
 - (C) 園児に関する情報の共有を図る
 - (D) 将来的な規模の拡充に照準を当て、施設・設備を見直す

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○行事が楽しい ○教職員の気持ち良い挨拶 ○施設設備の行き届いた清掃 ○基本的な生活習慣が身につく生活指導 ○安全教育 ○個人情報への適切な取扱い ○教育方針への共感 ○子どもと教職員との信頼関係 ○緊急時の適切な情報伝達 <p style="text-align: center;">(すべて満足度96%以上)</p> <p><評価が相対的に低かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自発的な言動 ○登降園の方法 ○課題への挑戦、解決への努力 ○応用力の養成 ○小学校との活動の連携 	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2021年度学校評価に関する検討は2022年3月10日(木)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <p>○アンケート結果より、保護者の満足度が全般的に非常に高いことが読み取れる。学園の教育理念が保護者によく理解されており、心の教育や社会規範の習得といった保護者の思いと教育活動がリンクすることで、子どもたちの学び、育ちに満足する保護者の心情が伺える。</p> <p>○アンケート結果においては全体的に「[5]とても満足」の割合が高く、充実した教育活動がなされている印象である。年中児で[5]の割合が低い項目がいくつかあるが、コロナ禍の中で入園され、行事の中止や休園などが相次いだ影響があるのではないかと。</p> <p>○アンケート結果は各項目とも概ね上々の評価といえる。小学校との連携に関する評価が少し物足りない数値であるが、城星学園小学校が進学先として意識されていることも要因なのではないかと。園児達が自ら城星小学校へ上がりたと言ってくれるような取り組みを増やしてほしい。</p> <p>○コロナ禍の中、工夫して活動されていると感じる。ただし他校種との交流が少ないことが残念。</p> <p>○市内のマンション建築ラッシュで、入園希望者が増加していると思われるが、変わらぬ教育方針のもと、子供たちの成長を見守ってほしい。</p> <p>○他校種の保護者から見た幼稚園は明るいイメージがある。園長の園児への声かけや教職員のいつも明るい挨拶などが雰囲気を作っていると思う。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

※満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

中期的目標	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(カッコ数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
1 ド リ ッ ・ ボ ス コ の 維 持 す る よ る カ	(A)アシステンツァの理解を深め、カトリックのミッションを具現化していく	(1)カトリックの精神に基づいた教育活動を日々実践するとともにさらに深化充実させていく。	サレジアンファミリーとしての自覚と意識改革のもとでの行動変容	幼稚園は、教育方針に沿った教育を行っている。(5) →満足度93.8%	(○)創立者の建学の精神及び予防教育法の研修を重ねることで、教職員の意識改革につなげるとともに、保護者への広報を積極的に行うことで、理解と共感が得られた。
	(B)創立者ドン・ボスコ、マリア・マザレロの精神を受け継ぐべく、研修を深める	(2)ドン・ボスコ及びマリア・マザレロの生き方・考え方を学ぶ研修を通して、予防教育法の理解と実践につなげる。	保護者との信頼関係構築と子どもの成長過程への寄与	幼稚園は、保護者に対してキリスト教主義に基づく教育方針の説明をわかりやすく行っている。(1) →満足度93.8%	(○)入試説明会や入園説明会等で教育方針の説明を丁寧に行い、園選択の大きな根拠となり得た。今後もさらに「アシステンツァ」の実践を通して、保護者の思いに寄り添う姿勢を示していきたい。
2 「 園 児 ・ 児 童 ・ 生 徒 の 安 全 」 管 理	(A)安全教育、ならびに時機に応じた避難訓練を実施する	(1)定期的に訓練を実施しながら、防災・減災・防犯等危機管理意識につなげる。	教職員・園児の意識改革と行動変容	幼稚園は、子ども達に安全教育を行っている。(23) →満足度97.9%	(○)地域の関係諸機関(警察、消防、区役所、保健所、児童相談所等)とも緊密な連携を図りつつ、あらゆる災害や犯罪を想定した訓練を定期的実施することで、子どもの安全意識の高まりと、教職員の危機管理能力の向上につなげることができた。
	(B)安全・安心の為の教育環境整備を充実させる	(2)安全・安心の為の教育環境整備を徹底し、危険回避を図る。	危険箇所や事象の迅速かつ正確な発見と適切な改善	幼稚園の施設・設備は、安全管理が行き届いている。(29) →満足度95.3%	(○)園舎、園庭の老朽化に伴う破損、汚損箇所が随所に見られたが、子どもの負傷実態や日常の気配りから危険予知を探り、迅速な改善、改修を行った。
3 創 立 7 0 周 年 (2 0 2 2 年 度) に お け る 学 園 の 将 来 像 を 描 く	(A)教職員の資質向上を図り、個々のスキルアップを目指す	(1)園内研修会の深化充実と建学の精神に基づいた教育法を継承する。	子どもたち一人一人が神のまなざしのもとで誠実に行動し善を選び取れる人格形成の基礎作り	教員の心配りが行き届いている。(28) →満足度94.8%	(○)教職員自らが自分を律し、範を示すことで、子どもたちに「良き社会人」となる基を説き導くことができた。今年度は人的、物理的に研修の機会の確保が困難であった。今後はさらに園内研修の深化充実を力に傾注していく必要がある。
		(2)「生きる力」の基礎となる「思考力」「判断力」「表現力」を培う上で、課題解決する力を育む遊びの創出と自主・自律の習慣や態度を身につけるよう導く	園児の協調性や責任感の醸成、自ら考え正しく行動、他者との関係における解決力の習得	子どもの応用力が養われている。(20) →満足度79.7%	(△)「生きる力」の基礎となる「思考力」「判断力」「表現力」の育成を図るため、日々の保育や様々な行事の企画、運営を通して、指導法の検討や立案を重ねてきたが、一人一人の子どもたちの意識改革や行動変容にはつながっていない。まだまだ教育者としての支援の在り方についての研鑽を深めていくことが必要である。

中期的目標	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(カッコ数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
3 創立70周年(2022年度)における学園の将来像を描く	(A)教職員の資質向上を図り、個々のスキルアップを目指す	(3)草花、野菜の栽培、虫等の小動物の飼育を通して、自然や生命の大切さや畏敬の念を育み、人や物、動植物を大切にすることを醸成する	日常生活の中で物を大切に自然を尊ぶ気持ちの顕在化、落し物や失くし物の減少	子どもの自然を大切にしようとする気持ち、物を大切に扱う行動などが見て取れる。(17) →満足度86.4%	(△)今年度は、さらなるコロナ禍により、動植物に積極的に触れ、それをきっかけに生命への畏敬の念を醸成する機会が減少した。次年度は、季節を体感できる教材や行事を積極的に取り入れながら、補填していくよう考えていきたい。
	(B)過去の入試結果の分析に基づいた刷新的な園児募集を行う	(1)園の魅力や教育方針を様々な情報媒体や機会を捉え、積極的に発信する。	毎年新入園児3クラス90名の確保	保護者として、子どもをこの幼稚園に通わせて満足している。(7) →満足度93.8%	(○)毎年、入試結果を基に次年度の募集計画案を策定しているが、今年度も概ね、当初の目標は達成できた。さらに、昨今の保護者の現状を鑑み、よりそのニーズに寄り添った方向転換を図りながら、将来を見据えた募集計画を策定していきたい。
	(C)園児に関する情報の共有を図る	(2)校種間の連携を強化することで、学園内の進路選択の拡充につなげる	園児・児童間にとどまらず教職員同士、ひいては保護者の理解深化	幼稚園は、小学校と連携した活動を行っている。(41) →満足度55.1%	(△)今年度もコロナ禍において、園児・児童・生徒間の交流の場を持つことが困難であった。教職員間の意思疎通を図るべく相互参観の機会を設けたが、まだまだ保護者の理解を得るまでには至っていない。今後は、さらに連携を深め、学園内の進路保障を確固たるものにしていく必要がある。
		保護者の思いに傾聴し、常に対話の姿勢を持って家庭との連携を図り、信頼関係を基礎としたより強固な教育共同体作りに努める。	連帯意識の高まりと、相互の信頼関係の構築	幼稚園には、子どもに関する相談が気軽にできる。(38) →満足度88.7%	(△)家庭との相互の信頼関係を構築すべく、全教職員が常に共通理解を図りながら、連携を図ってきたが、全ての保護者の信託を得るまでには至っていない。今後も逸早く保護者の思いや、ニーズを察知し、柔軟に対応していく努力が不可欠である。
	(D)将来的な規模の拡充に照準を当て、施設・設備を見直す	園舎、園庭等の施設設備の改修及び将来的拡充を視野に入れた使用法を模索する。	全教職員への参画意識向上と将来像の具現化	園舎・園庭等の施設・設備は、使い勝手が良く、随所に工夫が見られる(31) →満足度91.2%	(○)古いながらも常に手入れや改修、清掃を怠らず、清潔かつ安全を保ちながら使用していることで、保護者の理解は一定得られているが、教職員間において将来的な構想を描くまでには至っていない。幼稚園にとどまらず、全学園的視野で検討する場の設定が必要だと考える。